



2021/09/10

NPO 福島ダイアログ
理事長 安東量子

第 23 回福島ダイアログ 企画案

タイトル：「処理水をめぐる課題を福島で考える、世界と考える」
(日英同時通訳付き)

日程・会場：2021 年 11 月 28 日（日） 9 時～17 時

ならば CANvas + Zoom を用いたオンライン配信

*会場は一般聴講は想定せず、発表者とパネリストのうち県内在住者のみ利用予定。

協賛：日本保健物理学会 日本リスク学会
フランス原子力防護評価センター(CEPN)
フランス放射線防護原子力安全研究所(IRSN)

今年で、東京電力福島第一原子力発電所事故から 10 年が経ちました。

事故の影響を受けた地域では、日常をすっかり取り戻した地域や、前向きに進んでいる地域も人もいる一方、まだ課題が残されている地域や人もあります。なかでも、現在、もっとも大きな話題となっているのが、原発構内に溜まっている「水」の取り扱いです。

日本政府は、2021 年 5 月に処分方法を海洋放出にすると決定し、現在、関係者の間で協議が進められています。けれど、まだ多くの人の中には、割り切れない思いが残っています。もっと知りたいこと、言いたいこと、確認したいことがある、他の人の意見も聞きたいのに誰がどう考えているのかもわからない、そんな思いを抱いている人は多いのではないのでしょうか。

そこで、福島ダイアログでは、処理水をめぐる意思決定をテーマとして関



係する方達の意見を聞き、話してもらい集まりを開くこととしました。今回は、「賛成」「反対」の意見を議論をするための集まりではありません。どうすればよかったのか、どうしていくのがいいのか、それぞれの立場や考え方で違ってくる、それぞれの現在の状況認識や課題を話してもらい、それぞれが考える材料にしていきたいというのが、今回の集まりの狙いです。

また、処理水の処分をめぐることは、世界的にも処理方法だけではなく、その意思決定プロセスも関心を持たれています。日本では、福島では、何が問題となり、どのように話し合われているのか、そこにも注目が集まっています。

原子力関係の施設のあるところは世界のどこでも、施設のあり方や廃棄物などの処分をめぐる、施設（行政）と地域住民や社会と係争になることが少なくありません。今回のダイアログでは、オンライン（zoom）で海外とも繋ぎ、フランスの原子力施設周辺で設立されている地域住民協議会

（ANCCLI）の Yves Lheureux さん、そしてカナダでの住民と原子力施設との協議に関わってきた Pippa Feinstein さんに海外での経験もお話しいただき、同時に、日本の状況がどのように見えるかコメントも頂戴する予定です。

日英同時通訳を介して、海外の方にも日本の状況をお伝えする機会にしたいと思っています。

内容：午前中 20分の発表枠 7-8名（ライブ/録画どちらでも可能）
午後 パネルディスカッション形式のダイアログ 12名

福島県内在住者は、ならば CANvas 現地会場から直接参加可能。
県外在住者と希望者は、オンライン(zoom)にて参加。

* 福島ダイアログでの議論の内容は、公開を前提としています。

* 発表者 20分ほどの発表をお願いいたします。ライブ・録画のどちらでも可能です。録画とパワーポイントをご利用の場合、翻訳の用意のため1週間前までに提出するようご協力お願いいたします。

